

# 菅総理が言明 「最後の一体まで収集するのは国の責任」



アメリカ国立公文書館

日本政府はこの8月、首相補佐官をトップとするプロジェクトチームを作り、太平洋戦争の激戦地・硫黄島の戦没者調査に乗り出した。アメリカ国立公文書館に保存してある米軍の戦闘記録を元に集団埋葬地点を調べるといふものだ。

菅総理はチームの初会合で、「遺骨を最後の一体まで収集するのは国の責任だ」と強調したことが報じられた。

65年間自民党政権下でできなかったことを、首相の一言で「一朝一夕」には実現困難だろうが、多に期待している。アメリカ国立公文書館に日本兵を埋葬

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

したがって、主に戦争体験者の記憶、情報に頼りながら行ってきた。日本政府も同様だ。しかし、体験者の高齢化に伴い遺体収容は遅々として進まなくなっているのが現状だ。アメリカ国立公文書館には、米軍が日本軍と戦った沖縄やフィリピンなど全ての戦闘地域の戦死者の埋葬状況が記された膨大な資料が保管されている。

あれから2年の歳月は流れたが、ようやく日の目を見るこゝろができた。菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

ソ連抑留中死亡者遺体収容状況

年度	収容柱数	年度	収容柱数
平成3年度	56	平成13年度	2,271
平成4年度	905	平成14年度	2,311
平成5年度	898	平成15年度	685
平成6年度	806	平成16年度	595
平成7年度	1,108	平成17年度	211
平成8年度	1,590	平成18年度	240
平成9年度	948	平成19年度	95
平成10年度	2,371	平成20年度	307
平成11年度	876	平成21年度	95
平成12年度	706	合計	17,074

厚生労働省調べ

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

## 政府にプロジェクトチーム

## 米軍戦闘記録の調査開始

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。

菅総理が真摯に受け止めて、私どもの約束を実行に移したことに感謝したい。当会は、戦没者の遺骨や遺留品の調査を行う機会が多いが、いつも遺体や遺留品の発見・発掘は困難を極めている。それは敗戦国である日本政府が、連合国からの戦争責任の追及を逃れるため、ことごとく、戦史資料を焼却したからだ。



村山常雄氏

シベリア抑留者に對する補償や戦没者の遺骨収集などを盛り込んだ「シベリア特別措置法」が制定された。

7月末、抑留体験者である、新潟県糸魚川市の村山常雄氏を訪れる機会があり、シベリア抑留中に死亡した4万6千300人の名簿のデータを提供いただいた。

村山氏は、1996年、70歳の誕生日を機にパソコンを学ばれ、「シベリア抑留中、死亡者データベース」作成に着手、2005年に自身のホームページで公開。

## シベリア抑留死亡者 4万6千人をデータベース化

8月15日を平和の日(国民の祝日)に敗戦国・被爆国日本から「世界平和」を発信する

## 急がれる 遺体収容

シベリア抑留中に死亡した日本兵は5万3千人と言われている。別表は平成3年度～21年度までの厚生労働省発表の遺体収容の一覧表だが、僅か1万7千74人に過ぎない。

名前も埋葬場所も判明しているにも関わらず65年以上も放置されている実態を当会としては放置できない。早速厚生労働省に申し入れを行いたい。

一人の戦争・抑留体験者からのメッセージを肝に銘じ当会の目的である「反戦平和」活動に励むとともに、「シベリア抑留中死亡者」の捜索と遺体収容を実現するために厚生労働省と交渉を開始したことを村山氏に報告したい。

これは、両市と被爆者市民が一体となって「アー・モア・ヒバクシャ」を訴え、永年、真剣に取り組んだ成果であり、頭の下がる思いだ。一方、日本政府のこれまでの取り組みはどうか？

題字 津留晴尚  
戦没者追悼と 平和の会発行  
〒849-0112  
佐賀県三養基郡みやき町江口7561  
塩川総合企画(株)内  
発行責任者 塩川正隆  
電話 0942-89-5135  
FAX 89-9281  
e-mail:senbo-peace@senbotsusya.com  
http://www.senbotsusya.com



# 厚生労働省交渉の解説と回答

## 2010年8月3日午前11時から12時 外事室会議室

当会は、戦没者の遺体収容や遺留品の返還などの議題を柱に担当部署である厚生労働省援護企画課外事室との交渉を実施している。議題と解説・回答について骨子を掲載する。

交渉に先立ち、沖縄県那覇市の国吉勇氏から依頼された故笹沼守良氏(茨城県)の万年筆の返還を行った。(写真)



遺品を発掘した国吉勇氏



返還された故 笹沼氏の万年筆

### 議題

1、沖縄日本兵捕虜埋葬場所と申し出遺族の確認について(前回からの継続事項)

解説  
沖縄捕虜収容所で亡くなられた方々の遺骨がどこにあるか国に回答を求めているもの。厚生労働省回答  
遺骨の所在について、日本復帰以前のものとは分らない。(当会はアメリカ公文書館も含めて再調査を申し入れた)

2、フィリピンにおける日本政府の遺骨収集の在り方について

解説  
日本政府のフィリピンにおける遺骨収集について、フィリピン政府からクレームが付き、当会の遺骨収集にも支障をきたしていたため、前回(4月)に引き続き改善を求めているもの。

厚生労働省回答  
フィリピン政府とガイドラインを作成中だが、フィリピン政府内に入事異動があり進んでいない。(当会は7月レイテ島で受領した遺体写真とそれを報じたマニラ新聞を厚生労働省に渡し、発見されたカンギ



レイテ島カンギポット山麓で発見された遺体

度予算で、アメリカ公文書館より硫黄島の戦記記録の調査を行ったが、今年度の予定について聞いた。

3、フィリピン・ミランダオ島タロモ試掘再調査と来年度政府予定について(前回からの継続事項)

解説  
米軍資料に基づき、当会が日本兵の埋葬地を調査し、遺骨を確認、日本政府に再調査を求めているもの。

厚生労働省回答  
現地日本人会と協議し次回回答する。

4、アメリカ国立公文書館の情報収集進捗状況と来年度予定について(前回からの継続事項)

解説  
日本政府は09年を伝えた。遺族は同時に発掘された遺体の返還を求めていることを伝えた。また、前々回からの申し入れ事項である、若桜の塔の調査結果についても次回報告するよう求めた。

者名簿が揃っていないとの回答をしたが、これまでの遺留品の調査はどのようにして行ったか回答を求めたもの。

5、沖縄戦戦没者の遺体収容結果と予算措置について(前回からの継続事項)

解説  
今年6月、第二次世界大戦シベリア抑留者に対する補償や残された戦没者の収容を盛り込んだシベリア特別措置法が制定されたので、政府は戦没者収容を今後どのように行うか聞いた。

厚生労働省回答  
まだ、新しい方針はできていない。なお、シベリア抑留中死亡者は5万3000人で、収容された数は1万8500人。残された3万5000人の収容が急がれる。

6、旧日本陸軍戦没者名簿と遺留品の返還について

解説  
前回、厚生労働省は旧陸軍の戦没

## 沖縄の遺体収容

## NPO団体との連携の成果

### 茨城と千葉の遺族に遺留品を返還

当会は沖縄戦戦没者の遺体収容や遺留品の返還を現地ボランティアの方々の協力を得ながら連携して行っている。この

度、沖縄県那覇市在住の国吉勇氏が発掘した万年筆が厚生労働省を通じ、茨城県の遺族に返還された。また、NPO沖縄戦没者遺骨収集団「ガマフィア」代表

の具志堅隆松氏が那覇市真嘉比で遺体とともに発掘された故朽方精氏の万年筆は、千葉県の遺族に返還した。

両氏は、沖縄県で数十年間、戦没者の遺体収容活動をボランティアで続け、これまで数千人の戦没者の遺体を収容している。国吉氏の戦争資料館には10万点を

超える戦没者の遺留品が展示してあり、これまでの同氏の活動の歴史を物語る。また、具志堅氏は戦没者の収容を、緊急雇用対策費を活用して行い(フリーターやホームレスの人達を雇用)、今年、数百体の遺体を収容した。改めて両氏の活動に感謝する。

海外に放置されたままの、約115万人の戦没者が遺族の元へ帰ることを待ち望んでいる。確実に、間違いなく返還する方法は遺族のDNAを保存し、データベース化することだ。

日本政府は平成15年度からこの鑑定方法を採用し、これまで760人の戦没者遺族に遺骨の返還を行ってきた。そのほとんどは、戦没者遺体の保存状態がよいシベリア方面だが、最近では鑑定技術が向上し、沖縄や硫黄島、ニューギニアなどこれまで不可能だといわれてきた南方方面の遺骨からもDNAが抽出

され、遺骨が遺族に帰されたケースもある。そのためには、遺族のDNA採取が不可欠となる。当会では、専門家の指導を受けて、DNAを約100年間保存できるという「保存キット」を会員には1000円で販売することにした。

このDNAをデータベース化しておけば、100年後でも戦没者遺骨との照合が可能だ。戦没者遺族は高齢化しているため、さらに遺族のDNAの保存活動を推進していきたいと考えている。

## 戦没者遺族にDNAの保存を呼びかけ 当会が100年間有効のキット販売



遺品と遺骨を発掘した具志堅隆松氏



DNA保存キット

# 親父やつと会いに来たよ

## フィリピン・ロンブロン島訪問

2010年5月24日から29日まで、戦没者の遺族を案内しフィリピン・ロンブロン島を訪問した。同島は太平洋戦争中、福岡・佐賀・長崎の部隊約200人が戦死したマニラ湾に浮かぶ小さな島で、これまで日本政府は1975年に戦没者2人の遺体しか収容できてない島だ。

今回は、佐賀県と長崎県出身遺族の要望で、塩川代表理事が同行した。同島生還者から聞き取りした情報に基づき、各々の戦没地域で追悼を行いながら、戦没者の情報収集を行う計画だ。

遺体収容はできなかったが、戦没者遺族は、初めて父親が亡くなった戦地を訪れ、「ようやく父親に会えたような気持ちだ」と語った。

当会は、現地スタッフに戦没者の情報収集を依頼しており、近く遺体収容を実施する計画だ。



ロンブロン町舎前にて



ロンブロン港



参拝する前川正夫氏

### 父の眠るロンブロン島を訪ねて

前川正夫

このたび、「NPO法人戦没者追悼と平和の会」代表理事塩川正隆様のご好意により、フィリピン・ロンブロン島戦没者参拝・試掘調査の旅の一員として、永い間の念願でありました、父が眠るロンブロン島ラクティンの地を訪れる事ができたことを心よりお礼申し上げます。

定年退職後、日本遺族会が実施しております、フィリピン慰霊友好親善訪問団に参加して父親が眠るロンブロン島に出来る限り近くに行けるコースを待っていました。なかなか満足が出来るコースがなく、しびれがきて平成20年11月に参加しましたが、父親が眠るロンブロン島よりはるか離れたネグロス島のバコロドの海岸で慰霊祭をやっていた。これが最後だと思っておりました。

思いがけなく平成21年9月、貴会がロンブロン島で旧日本兵の遺骨収集・調査を行うという新聞記事を見、居ても立っても居られない気持ちになり、さぞかし無念な気持ちで父は散っていったとお願ひしたところがありました。

調査結果を聞き、有力な情報が得られたとのことであり、再度遺骨収集を行う話を聞き、その場で同行したい気持ちになりました。またロンブロン島の石をいただき、すぐお墓に納めさせていただきました。

今回、フィリピン・ロンブロン島戦没者参拝・試掘調査に参加して父親が眠るラクティンの地に立ち慰霊祭が出来たこと。65年間の永きに亘り放置していたことに對するお詫びと、苦しかったろう、淋しかったろうと慰めの気持ちを表すことが出来て、遺児としての責任を果たしたようになりました。

それにしてもロンブロン島は本当に遠い所だ、なかなか行ける所ではないと思いましたが、また、ラクティンは本当に遠く淋しい所で、現地の人は純粋な心を持った人ばかりで、何故こんな所まで人間同士が殺し合いをしたのか、国策とは言え大切に愛する家族を残し、言いたい事も言えず、青春を謳歌する事なく、

さぞかし無念な気持ちで父は散っていったと思ひます。

父親が眠るラクティンの地で慰霊祭をする事ができ「親父さん65年ぶりに逢いに来ます。何処に居るか返事をしてくれ」と叫び、またお詫びと慰めの言葉を捧げ、今日を境に安心してゆっくり休んでくださいと父親に対していい供養ができた事に對して感謝します。

ラクティンまでの道は険しく遠く、大変疲れましたが充実した一日でありました。

今回の旅行で本来の目的であった遺骨収集は達成出来ませんでした。が、鉄砲の弾が出てきたという事は日本兵がいた証であり、新しい情報もあるようですので、次回も計画されています。

貴会のご発展と塩川様の健康でますますのご活躍をご祈念申し上げます。

本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

父が眠る異国の地よフィリピン国よロンブロン島ラクティンの地よ温かくあれ

### ガダルカナル島にも現地調査(11月16日〜24日)

当会は2008年12月、アメリカ国立公文書館から日本兵と戦ったガダルカナル島における米軍の戦闘記録を入手したので、同島で遺骨収集を行っている福岡ホニアラ会に同行し、11月16日から24日まで同島の「ホニアラ」地区を中心に戦没者の調査を行うことにした。ガ島は四国の半分くらいの面積の島だが、1942年(昭和17年)8月7日、米軍の上陸で日本兵約2万人が戦死している。



### 日程表

期日	地名	現地時間	発着
1日目 2010年11月16日	福岡	10:10	発
	シンガポール	15:40	着
2日目 2010年11月17日	ブリスベン	9:30	発
	ホニアラ	13:45	着
3日目 2010年11月18日	ホニアラ	終日	
4日目 2010年11月19日	ホニアラ	終日	
5日目 2010年11月20日	ホニアラ	終日	
6日目 2010年11月21日	ホニアラ	終日	
7日目 2010年11月22日	ホニアラ	14:45	発
8日目 2010年11月23日	ブリスベン	14:45	発
9日目 2010年11月24日	シンガポール	1:05	発
	福岡	8:00	着

### 第15回 日・比合同追悼式

2010年7月1日、フィリピン・レイテ島ビヤバの「日・比合同慰霊碑」で第15回日本とフィリピン合同の追悼式典を行った。

式典には、現地バリティ小学校の教職員や児童など約50人が参加した。合同式典参加者も様変わりし、15年前は数十人おられた、現地軍人会のメンバーは一人もいなくなった。したがって、当会の坂木茂太郎副理事長(90歳)だけが戦争体験者となった。



遊戯するバリティ小学校児童

### バリティ小学校 保健室工事

昨年来の懸案であるバリティ小学校の新築工事だが、設計業者の選定中で近く構想が示されることとなった。なお今年も児童全員に鉛筆、ノートを寄贈した。

### カタグバカン 小学校の改修工事

また、レイテ島における、日本軍終焉の地カンギポット山の麓にあるカタグバカン小学校にも学用品を寄贈するとともに、校舎の改修工事を行った。



窓もないまま放置されたカタグバカン小学校

### 今年が最期...と坂木副理事長90歳のミンダナオ島

レイテ島訪問に合わせ、坂木副理事長が戦争を体験したミンダナオ島を訪問した。

坂木氏も今年で90歳。毎年、今年が最後の年になるかもしれない、とまさに「老体に鞭打って」戦没者の供養をされている姿には頭が下がる(坂木氏は僧侶)。

「戦没者に生かされて生きる」とのことだが、いつまでも元気でいてもらいたい。



戦没者の冥福を祈る坂木茂太郎副理事長

### 国際ソロプチニスト 佐賀から表彰

女性経営者など、世界中でボランティア活動を行っている、国際ソロプチニスト佐賀から当会の活動に対して表彰状と募金が贈られた。

戦没者の遺体収容などに大切に活用させていただきます。

### 当会の活動に感謝状 中国帰国者の会

太平洋戦争中、肉親と離れ離れになり、中国人の親に育てられ、その後帰国された人たちがいわゆる中国残留孤児でつくる中国帰国者の会から、当会に感謝状と募金が寄せられた。

なお、同会の中心メンバーの方々は当会の会員として活動していただいている。



# 平成22年度総会を開催

## 平成21年度 特定非営利活動に係る 事業会計収支計算書

平成21年8月1日から平成22年7月31日まで  
特定非営利活動法人 戦没者追悼と平和の会

科	目	金額(単位:円)
<b>(資金収支の部)</b>		
<b>I. 経常収入の部</b>		
1.	会費・入会金収入	759,000
2.	寄付金収入	578,900
	<b>経常収入合計</b>	<b>1,337,900</b>
<b>II. 経常支出の部</b>		
1.	事業費	2,314,732
2.	管理費	322,528
	<b>経常支出合計</b>	<b>2,637,260</b>
	<b>経常収支差額</b>	<b>▲1,299,360</b>
<b>III. その他資金収入の部</b>		
	その他資金収入合計	0
<b>IV. その他資金支出の部</b>		
	その他資金支出合計	0
	<b>当期収支差額</b>	<b>▲1,299,360</b>
<b>V. 正味財産増減の部</b>		
	前期繰越正味財産額	1,433,784
	<b>当期正味財産合計</b>	<b>134,424</b>

平成22年8月21日午後から福岡県久留米市のハイネスホテル久留米において、「平成22年度NPO法人戦没者追悼と平和の会総会」を開催しました。当日は、総会員数264人のうち、出席者28人(委任状142人)で事務局長高木一希を議長に、平成21年度活動報告並びに平成22年度活動計画などを確認しました。

新期役員については任期満了に伴い前任者を重任することとなりました。総会内容につきましては報告します。

また、総務大臣 原口一博衆議院議員と古賀一成衆議院議員から応援のメッセージをいただきました。

### 平成21年度 事業報告書

平成21年8月1日から平成22年7月31日まで

1. 事業の成果

1) 慰霊巡拝活動

平成22年1月、沖縄で遺体収容の旅参加者で慰霊を行いました。

平成21年9月、22年5・6・7月、フィリピンでの調査とともに戦没者の追悼を行いました。

2) 遺体収容

「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を開催。全国各地の会員など(約40名)が参加し、遺体収容作業を行いました。

アメリカ国立公文書館で日本兵捕虜6000人分の埋葬リストを入手し、主要都道府県で記者会見を行い、遺族捜し及び情報提供を呼びかけました。現地の情報をもとに、

### 2. 事業の実施に関する事項

定義の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
戦没者の追悼	慰霊巡拝	9月18日~28日 1月15日~17日 5月1日~8日 5月23日~29日 6月27日~7月4日 7月25日~8月2日	沖縄 フィリピン	10名	戦没者及びその遺族60万人	127
遺体収容と返還	「沖縄戦戦没者遺体収容体験」を開催 遺族捜し呼びかけ(記者会見)リスト関係調査	1月15日~17日 1年間	沖縄県 全国	40名 1名	戦没者及びその遺族60万人	1,788
諸外国友好親善	レイテ島のバリエティ小学校生徒及び、現地人との交流	7月25日~8月2日	フィリピン・レイテ島	4名	レイテ島バリエティ小学校600人	77
平和活動	平和講演	8月6日・15日・23日 11月26日 12月4日・18日 6月18日	九州各地	3名	戦没者及びその遺族60万人	115
会報及び戦史発行	会報「平和の灯」第16号発行 第17号発行	8月31日 2月28日	事務局	10名	戦没者遺族会等500人	205

### 平成22年度 事業計画書

平成22年8月1日  
自平成23年7月31日  
至平成23年7月31日

1. 事業の方針

(1) 帰れたはずの戦没者はどこに(戦後75年に向けた長期計画で)

平成21年2月、当会はアメリカ国立公文書館から、第二次世界大戦における日本軍捕虜埋葬リスト(5979人)を入手し、日本語版を作成、当会ホームページで公開しています。リストを基に全国各地で遺族捜しを行い、約30人の遺族が、自分の肉親ではないかと名乗り出られました。そのすべての方が遺骨は帰ってこないと言われていた。氏名までわかり、帰れたはずの遺骨はどこへ行ったのでしょうか。

また、厚生省発行「援護50年史」によると、昭和28年から始まった遺骨収集は昭和41年までは日本に持ち帰るのは一部の遺骨(代表遺骨)で、他の遺骨は放置されてきた実態が記載されています。現在の厚生労働省も後で収集したはずだが、記録がないと言っています。

ここでも「帰れたはずの遺骨がどこへ行ったのか」という疑問があります。

当会は、国の担当部署である厚生労働省社会援護局・援護企画課外事室と年間5~6回のペースで交渉を続けています。この中で真相を究明し、帰れたはずの遺骨が

### 活動記録

平成21年8月1日~22年7月31日  
NPO法人戦没者追悼と平和の会

活動日	活動内容	従事者	活動場所
21年 8月 3~7日	記者会見(沖縄戦戦没者遺族捜し)	1	中部・近畿 関東・東北
6日	平和学習(春日北小学校)	2	佐賀市
10日	記者会見(沖縄戦戦没者遺族捜し)	1	北海道
15日	平和講演(佐賀県連合青年団)	1	佐賀市
18日	厚生労働省申入れ	1	東京都
22日	平成21年度総会開催	24	久留米市
23日	平和講演(佐賀県親大会)	6	佐賀市
31日	平和の灯第16号発行	5	事務局
9月 18~28日	フィリピン調査	1	フィリピン
10月 30日	名称・定款変更申請	1	佐賀県
11月 26日	平和講演(水俣遺族会)	1	水俣市
12月 4日	平和講演(中原遺族会)	1	みやま市
18日	平和学習(上峰中学校)	2	上峰町
22年 1月 8日	事務局会議	11	事務局
13日	名称・定款変更承認	1	佐賀県
15~17日	沖縄戦戦没者遺体収容の旅開催	46	沖縄県
27日	NPOヒヤリング参加	8	東京都
2月 4日	事務局会議	1	事務局
25日	民主党厚生労働委員会(法制化必要性の説明)	3	東京都
26日	厚生労働省申入れ	3	東京都
3月 25日	記者会見(FTAカード)	1	佐賀県
29日	記者会見(FTAカード)	1	沖縄県
4月 22日	事務局会議	7	事務局
28日	厚生労働省申入れ	1	東京都
5月 1~8日	フィリピンバオ調査	1	フィリピン
23~29日	フィリピン・ロンブロン島試掘	3	フィリピン
6月 18日	平和講演(久留米運送労働組合)	1	久留米市
27日~	フィリピン・ミンダナオ島調査	2	フィリピン
7月 ~4日	フィリピン・レイテ島「平和式典」	2	フィリピン
28~29日	遺留品受取(国吉・具志堅)	1	沖縄県
31日	シベリア留置体験者村山氏訪問	1	新潟県

また、第二次世界大戦における日本軍捕虜埋葬リスト(5979人)を入手し、日本語版を作成、当会ホームページで公開しています。リストを基に全国各地で遺族捜しを行い、約30人の遺族が、自分の肉親ではないかと名乗り出られました。そのすべての方が遺骨は帰ってこないと言われていた。氏名までわかり、帰れたはずの遺骨はどこへ行ったのでしょうか。

また、厚生省発行「援護50年史」によると、昭和28年から始まった遺骨収集は昭和41年までは日本に持ち帰るのは一部の遺骨(代表遺骨)で、他の遺骨は放置されてきた実態が記載されています。現在の厚生労働省も後で収集したはずだが、記録がないと言っています。

ここでも「帰れたはずの遺骨がどこへ行ったのか」という疑問があります。

当会は、国の担当部署である厚生労働省社会援護局・援護企画課外事室と年間5~6回のペースで交渉を続けています。この中で真相を究明し、帰れたはずの遺骨が

### 2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込額(千円)
戦没者の追悼	戦没者の追悼及び祈念碑の維持管理を行う	年2回	フィリピン 沖縄	各5名	戦没者及びその遺族100万人	200
遺体収容と返還	インターネットを通じた依頼や発掘による遺留品の情報を調査し遺族に返還する	常時	全国 アメリカ	3名	戦没者及びその遺族300万人	50
遺体収容と返還	「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を開催し、戦争を風化させないために、多くの若者に戦争の悲惨な現状を知ってもらう。収容した遺体は、遺族のもとへ帰れるように法律の制定を求めるアメリカ国立公文書館の米軍戦没者遺体調査、戦没者の遺体収容に活用する	年3回	フィリピン 沖縄 全国	50名	戦没者及びその遺族240万人	3,000
諸外国との友好親善	6万余りの日本人が戦死しても自爆テロやゲリラ活動が続く、フィリピン・ミンダナオ島の人々への支援のため古着を集め贈る。また、多くの日本兵が亡くなったカンギボット山やマッカーサー上陸地点のパロ十字架山周辺の小学校に学用品を贈る	年1回	フィリピン・レイテ島 バリエティ	20名	フィリピンレイテ島ミンダナオ島の住民15万人	500
平和活動	終戦記念日の8月15日を「平和の日」(祝日)とするよう全国の平和団体と連携し、法律の制定を求める。小学校や平和団体からの講演依頼による、講師派遣や遺留品の展示を行う	年5回	全国	20名	全国民1億2千万人	500
会報及び戦史発行	当会の活動及び計画を、会員全員に報告する。また、戦争を語り継ぐ手段として、機会があれば配布する	年2回	当事務局	10名	会員及びその関係者2万人	300

### 新期役員

平成22年8月から平成24年7月まで

役名	氏名	役名	氏名
理事	永田 勝美	理事	坂本茂太郎
理事	塩川 正隆	理事	川副 正敏
理事	高田 俊秀	理事	高木 一希
理事	川村 博文	理事	桑野智喜人
理事	山本 直樹	理事	矢野 佳運
理事	谷川 仁	理事	塩川 聡
理事	善家健一郎		
監事	西土 純一	監事	島 靖彦

### 応援メッセージ

二〇一〇年度総会のご盛況をお聞きし、心から感謝申し上げます。

心から感謝申し上げます。また、世界の平和を祈ります。

事務局 古賀

総務大臣 衆議院議員 原口一博

NPO法人 戦没者追悼と平和の会  
2010年度 総会のご開催と心からお慶び申し上げます。日頃よりご支援を賜り感謝申し上げます。本日の総会の実りある成果をお祈り致します。心からお祈り申し上げます。

2010年8月21日  
民主党福岡県支部連合会代表  
衆議院議員 古賀一成

### 第7回「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」のご案内

今回で7回目となり、す「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を開催します。詳細につきましては、まだ決定していませんが、参加希望の方は、事務局までご連絡ください。詳細な日程が決まり次第、改めてご案内させていただきます。

連絡先  
TEL: 0942-809-135  
Mail: senbo-peace@senbosusya.com  
事務局 古賀

日時 平成23年  
1月14日(金)~16日(日)

参加費 ①福岡空港出発(航空券・ホテル代金)

②現地合流  
「会員」45,000円  
「非会員」55,000円  
「非会員」15,000円

締切り  
平成22年11月12日(金)  
先着①30名②20名まで